

「なわとび集会」をしました。

1月30日(火)1限目に、全校で「なわとび集会」をしました。まず、代表から開始のあいさつがあり、司会者からなわとび集会のルール説明がありました。その後、各グループ(6グループ)でチャレンジタイムが始まるまでの間、自由練習があり、その後8の字跳び3回のチャレンジ(1回3分間)がありました。本来は、チャレンジ終了後2分間の休憩をはさむのですが、なわとび集会の時間がみんな楽しかったのか、休憩の時間も座って休まずに、ずっとなわを跳び続けていました。チャレンジの時間では、5,6年生の子が、1,2年生の子に跳ぶタイミングを声で伝えたり、そっと背中を押して合図をしていたりする姿が見られました。とても微笑ましい光景でした。

今回の学校行事では、上級生が下級生のことを思いやり、ほのぼのとした時間を過ごせたことが何よりも良かったです。下級生は上級生のやさしさやあたたかさを体感し、うれしい気持ちになったことと思います。全学年を分散させてグループを作り、なわとび集会を実施しましたが、子どもたちの表情が穏やかで、縦割り競技の良さを実感できた時間となりました。

沖縄戦について考えました。(6年生)

1月30日(火)に、これまで私自身が訪問した国内外の戦跡や戦争にゆかりのある地の写真を見せながら、「平和学習」を行いました。実際に沖縄県のある島を訪問した際、住民の方から畑からザクザクと出てきた銃弾を見せられました。その写真を見せた時には、子どもたちから「えーっ、こんなんがあるのー」という声があがっていました。韓国の板門店(パンムンジョム)に行った時の写真を見せ、「ここが北緯38度なんだよ」と伝え、食い入るように写真を見ていました。シンガーソングライターの梅原司平さんが知覧特攻隊のことを歌っている「生命の花」やNPO法人沖縄東アジア研究センターが製作した「もうひとつの沖縄戦記～あのときそんな子どもたちがいた～」というDVDも子どもたちに見せました。子どもたちは社会科の時間に第2次世界大戦について学んだばかりで、興味や関心があったのか、しっかりと顔を上げてDVDの映像を見ていました。映像の最後にテロップで流れた言葉、「めぐまれた豊かさの中で 平和の尊さを感じることはむずかしい。しかし、忘れてはいけない。あのひ、あのとき、そんな子どもたちがいたことを。学んでほしい、戦争のことを。知ってほしい、平和の尊さを。守ってほしい、未来の平和を」から、子どもたちはどんなことを感じ取ったのでしょうか。

「平和の最大の敵は無関心」「戦争の最大の友も無関心」という言葉が、沖縄県のある島の平和資料館に飾られていました。平和な社会を築くためには、自ら学ぶことが大切だということです。時には立ち止まって、現在の社会で起こっていること、自分の身の回りで行っていることについて、自分たちはその社会の中で流されてしまっていないのかを振り返ってみることも大切だと思います。

「あの花が咲く丘で 君とまた出会えたら」の映画の話もしましたが、犠牲になっていい命、犠牲にしている命は一つもありません。皆さん一人ひとり、生きているだけで本当に素敵で素晴らしいのです。そんなことを今回の授業では伝えたいと思いました。

以下に子どもたちの感想を一部抜粋して紹介します。

(文責 北住 昌文)

- 平和は簡単に手に入れることはできません。無関心していると、いつの日か戦争がやってくると思いました。
- 小さい子どもも戦争で死んじゃったんだなあと思いました。沖縄戦を絶対に忘れてはいけないと思いました。
- 20歳ぐらいの人も戦争にあって亡くなっているのを知りました。戦争をなくしたいと思いました。
- 沖縄戦が残酷なことを知ったけど、戦争はとても人の命を軽くみて、人を狂わせてしまうと思いました。
- 今、世界でたくさん戦争が起こっているけれど、戦争が亡くなってほしいと思った。沖縄戦は、かみそりで首を切るとか、手りゅう弾で自害するとか、病気で亡くなってしまったりと、悲惨な戦争だったんだらうなって思いました。

